

そこはトタン板並ぶ裏道、抜け道、近道、回り道の路地だ。したたる滴もなんの雨ガツパ達現れたかと思うと、そのトタン板を打ち鳴らし歌うは『恋の季節』だ。

雨ガツパ達、トタンの裏側へ身を翻して消えた。すると、青いシャツ着た男、その路地に現れ、手に持つ傘の先端でトタンをバラバラと鳴らした。

青シャツ

何の音かと思いました。外は海で、それも冬の海で、いつまで経っても風は吹き、波は高く大時化で、耳をふさいでも響き続けるもんだから。どうして、まさか、いつのまにと、こうしてこの路地を奥へと進めば、唸りを上げた冬の海は、このトタンにぶつかる横なぐりの雨でした。(また、トタン板を傘の先端でバラバラと) 今落ちたしずくは地を這い、誰かの髪からたれた一滴と、どこかの雨樋を伝う一筋と出会い、溝を行き、川に注ぎ、海へ帰る。それはまた空に昇り、風に乗り、こうしてまたここへ帰る。(またバラバラと) ほらごらん、そして、巡った雨がまた……。 (と空を見上げた)

その路地に入って来たのは、乳母車押す老婆。

老婆 ああ、やっと会えた。

青シヤツ 僕にですか？

老婆 巡り巡って

青シヤツ お婆さんはそれじゃ雨だよ。

老婆 ようやく止んだねえ。

青シヤツ また降りますよ。

老婆 その口ぶりじゃ、雨男かい？

青シヤツ 飴はおしやぶり、

老婆 雨のおしやべり？

青シヤツ 雨は土砂降りさ、これから。

老婆 やっぱり雨男だ。何かあればその日は雨。どこか行けば必ず雨。雨ばかりに甘んじてばかり、あんたばかりがどうしてそうなの？

青シヤツ そんなバカなと思うけど、自分ばかりがなんて思いませんよ。

老婆 何故、あんたの上ばかりに雨が降るんだろうね。

青シヤツ 雨は皆の上に降ってます。

老婆 いや、何故かあんたの上だけに、

青シヤツ それは何の挑発ですか？

老婆 イラッと来たね、やっとまた会えたのに、

青シヤツ

いつかどこかで会いました？

老婆

巡り巡ってね。こうして変わり果ておちぶれ果てたが、どこかでほんの少しだけ、忘れられないお婆ちゃんですよ。

青シヤツ

覚えてないんですよ、忘れられないその前に、お婆さん。

老婆

あらま、それじゃ届かなかったのかしら。ふと思いつちやったのよ。胸の奥でね、つづりそびれた白紙の便箋が何枚も折り重なっちゃってます。それ、あんたに届いたかどうか？心配になって、お婆ちゃんここまで見に来ちゃった。

青シヤツ

何スカ、それは？

老婆

当ててごらん。

青シヤツ

まさか、老婆から？

老婆

まさかって？

青シヤツ

やめてよ、ラブレターは。

するとさっきの雨ガツパ達、手紙を差し出して「郵便です！」と、ずぶぬれの雨ガツパを頭からかぶり、路地裏から手紙を差し出す。

青シヤツ

……ラブレター……。

郵便屋達

そうなのかは知りませんが郵便です。

青シヤツ

ラブレター……ですか？

郵便屋達

中身はわかりませんが郵便です！

青シャツ

部屋の方へ。

郵便屋達

大家さんが洗濯に行かれたと。

青シャツ

追って来たんですか？

郵便屋達

郵便です！

青シャツ

そこまでしなくても、

郵便屋1

電話やFAXと同じくらい確実な伝達手段だと、そう思われたいが為、

郵便屋達

こうして雨の中、追って来ました！（と、体についたしぶきを飛ばす）

青シャツ

ズブ濡れですよ。

郵便屋達

ハックシヨイツ！

青シャツ

まるで海から上がった様に、

郵便屋達

雨の日はつらい仕事です。ゆうびん（と、更に差し出す手紙）

青シャツ

ああ、そりやどうもご苦労様です……流れてます。宛名も住所も差出人も、雨で滲んで流れて

ます。

郵便屋2

それでも手紙は手紙でしょう。

青シャツ

でも、こんなに滲んで流れてちや、僕宛なのかも、

郵便屋3

中身を読めばわかるでしょう。

青シャツ

僕宛じゃなかったらどうすんの？

郵便屋4

こうして届けられたんだから、

青シャツ

受け取れません。

郵便屋達

ヒッ！（と、手紙ひっこめ）

老婆

そうなの……。それじゃあもう一巡りしてこようかね。今度はもっと変わり果て、落ちぶれ果てての再会となるでしょう。（と行こうとして）

青シャツ

もう来なくていいです。

老婆

そうはいかないんだよ。

青シャツ

どうして、

老婆

あんたがそうさせないから、

青シャツ

こっちのせい？

老婆

あんたがそうさせるのさ。

青シャツ

水に流して、

老婆

また雨となって降りかかる。

青シャツ

洗濯機で回すから、

老婆

いつかまたこびりつく。

青シャツ

ん？まさか！

老婆

やっと気がついたね。

青シャツ

しまった。水に流したか？

老婆

変わり果て、おちぶれ果てて巡ってるよ。

青シャツ

後ろのポケットに入れたまま……。

老婆

クッククックク(と笑い) どうやらまた巡ってしまっただねえ。(と乳母車押し去る)

トタンの路地もいつしか消え、そこはコインランドリーの中。洗濯機を前に青シャツ。

青シャツ

もしかしたらと思っちゃったんです。こうして雨の中、コインランドリーに戻って来たのは、洗濯終了までの三十分、コーヒーでも飲もうと思っていたのに戻って来たのは、麻で出来ててツータック、ズボンの後ろポケットに、もしかしたらと思っちゃったんです。(と洗濯機に手を入れた)

ザブーンと波の音。しかし、青シャツが掴んだのは獣の毛だ。

青シャツ

洗濯機の渦の中、巡り巡ったラブレター。それは獣の毛となり絡み合い、オイ、よせ、今はどこを巡ってんだ、麻で出来ててツータック君ーッ!

ピンクとキラース『恋の季節』が流れる中、男は全ての洗濯機を開け、その中をまさぐり、忘れ物入れまでひっくり返す。銭湯のミヨちゃん、それを止めようとするのだが、男は目もくれず。

ミヨちゃん

(たまりかねて) おかみさん、痴漢ですよー!

青シャツ

(我に返り) エッ？

と、奥の扉や入り口から、おかみさん・ケンちゃん・浜さん飛び出す。皆、洗濯板やタワシ・モップ・ホースで武装している。皆で男をひっつかまえて、壁の張り紙に押し付けて、

皆

出来心なの！！

青シャツ

えっ！

皆

出来心じゃないの？！

青シャツ

何が？

浜さん

嫌だよこの人。あーイヤラシイ！返してよ、あたしの花柄！何でそういう事するんだろうねエ、全く。

ケンちゃん

俺のまで持つてく事ないだろ。返せ、トラのパンツ！

おかみさん

わたしの毛糸はどうした？！手編みの毛糸のあったかいやつは！

浜さん

ミヨちゃん！ミヨちゃんも言つてやんな！

ミヨちゃん

私は……、

浜さん

ホレ言いなよ。ここであつたが百年目なんだから、なんでそういう事するだろうねえ、花柄は一枚しか無かつたのよ。冗談じゃないよ、全く。

ケンちゃん

浜さん、花柄？

浜さん

(照れて) ……イヤだヨオ！

青シャツ

あの……。

おかみさん・ケンちゃん・浜さん

あのじゃないでしょ！あのじゃないでしょ！あのじゃないでしょ！（と、男を壁の張り紙に押し付けて）

青シャツ

すごく痛いです。

浜さん

一つ！

銭湯の皆さん

ここは皆のランドリーです。美しく使いましょう。

浜さん

一つ！

銭湯の皆さん

みだりに洗濯機を開けないように。中に洗濯物が残っている時は、十分位は待ちましょう。それでも、持ち主が来ない時は、備え付けのカゴにお入れください。

浜さん

一つ！

銭湯の皆さん

靴やぞうきん、ペットのカーペットなど、家庭で洗えないものを当ランドリーで洗うのはご遠慮下さい。

浜さん

一つ！

銭湯の皆さん

最近、ランドリー内での盗難が増えております。財布・カバン等、お忘れ物のないようお気を付け下さい。特に女性の下着、新しい服などご注意下さい。

浜さん

一つ！これを守ってくれないと、

銭湯の皆さん

嫌だヨオ！

青シャツ

僕が犯人だと？

ケンちゃん

見てみる、この散らかしよう！

おかみさん

うちのランドリーが二十四時間営業なのをいい事に、夜中人氣がなくなるとやってきて、散々に散らかして帰るんだから。それは今日はまだ夕方ですよ。大胆と言うか、凶々しいと言うか、意表をつけて、嫌ですよ本当に。

浜さん

今日は何盗ったんだい？　ここへ出しなさい、ここへ！

青シャツ

僕は何も、

ケンちゃん

まだシラ切んのかてめエ。裸にヒン剥くぞ！

青シャツ

盗ってませんよ、何も

おかみさん

ミヨちゃん。ミヨちゃん、見たんでしょ。

ミヨちゃん

はい、おかみさん。この人、洗濯機のフタ全部あけて、忘れ物のカゴまでひっくり返して、

ケンちゃん

ほれ見ろ。ミヨちゃんが目撃してんだぞ、てめえ。

浜さん

警察呼ぶわよ、

青シャツ

違うってば！　僕はただ、ここへ洗濯に来て、

浜さん

ついでに下着も盗って帰るつもりだったんだろう。

青シャツ

そうじゃなくて、ズボンが、麻で出来ててツータックのズボンがね、

おかみさん・ケンちゃん・浜さん　えっ？何のズボンだった？

青シャツ

麻で出来ててツータック。もう何年もはいてなかったけれど、洗濯しようとして。終了までの三十分、コーヒーでも飲もうと外へ出ましたが、そば降る雨の路地で、ポケットに入れたままかも知れないと思いい立ち。

ケンちゃん

そりや何だ。万札か？

青シャツ

あつたはずの。それを思い出し、急いで帰って来てみると、それは泥水の中、こんな風に姿を変えて、異臭を放ち現れた！(と、犬の毛がからむ手を差し出す)

ケンちゃん

あつ！お前だな、いつも犬のカーペットここで洗うの！

青シャツ

えっ？

浜さん

(その洗濯機へ行き) あゝあ嫌だヨ、嫌だヨオ。つまっちゃってドロドロだよ。

青シャツ

洗濯機を間違えたのかと、全部覗いてみたんですが、ズボンどころかシャツもパンツも靴下も、

ケンちゃん

そんじゃ何か？お前も盗まれたつてのか？

青シャツ

そうなんですか？

おかみさん

盗人猛々しいとはこの事ですよ。あたしはいつも思ってたんですよ。そういう事する人がいても、もしかしたら、出来心かもしれない。いつかこんな風に出くわして、咎める事があつたら、話のわからない銭湯のおかみにはならないようにしようつて。だつて銭湯つてのは、皆さんのおかげでやつて行けるんだから、いろんな人が来るんだから。それが人情つてもんだらう。いつも皆にそう言つてただらう。

浜さん

おかみさん。あたしや好きだよ、おかみさんのそういう所。だけどね、こんな奴許してやる事なと思いますよ。こんな嫌な奴！

青シャツ

本当なんです！僕のも無いんです！

ケンちゃん

て事は何だ？お前が帰ってくるその前に、この夕方の人がたくさん来る時間に、別の誰かがここへ来て、ひっ散らかして盗んで行つたつてのか？

浜さん

あんたが帰つてきた時にや、もう荒らされた後だつて言うの？

おかみさん・ケンちゃん・浜さん　　そう言うの？

青シャツ　　夢中で覚えちゃいないんです。でも現にこうして、

おかみさん・ケンちゃん・浜さん　　ミヨちゃん、そうなの？

ミヨちゃん　　はい……、私が来た時にはもう散らかってて、その中にこの人が、

おかみさん・ケンちゃん・浜さん　　あんたがやったんでしょ。

青シャツ　　違いますよ。

ミヨちゃん　　この人が、あっちこっち捜し回って、

青シャツ　　違うんですって！

ミヨちゃん　　探し回ってました。……盗んでるって言うより……。

おかみさん　　ミヨちゃん、正直に言うのよ。見たのはあんただけなんだから。この人なんですよ。ここ数ヶ

月、夜な夜な現れてはここを荒らして行く犯人は。

ミヨちゃん　　そんな感じじゃ？

浜さん　　ミヨ子！（と、ミヨちゃんの頭ひっぱたいて）

痛い！ 浜さん。

浜さん　　もつと痛くしてやるよ！（と、もう一発ひっぱたく）

ミヨちゃん　　おかみさん。（と、後ろに隠れて）

浜さん　　そうやってすぐ甘えるんだから、全く！

おかみさん　　まあまあ浜さん。

ケンちゃん　　どうしたんだよ。

浜さんかわいそうになって来たのよ、この子。皆に責められてるこの男が、かわいそうになって来たのよ。だから曖昧な事言って。そう言う所嫌なのよ、すぐカワイコぶって優しくするんだから。本当に甘ちゃんだわさ！ミヨ！もうあんたにや、夜食出さないからね！

おかみさん

ミヨちゃん、どうなの。この人盗んでたんじゃないの？

ミヨちゃん

そんな事言われても、わかりませんよ……。

ケンちゃん

よく思い出してみな。誰も怒りやしないから。

浜さん

すぐそうやって甘い顔すんだから。どうなの？ はっきり言いなさいよ、ミヨ！と、又、お

ケンちゃん

かみさんの後ろのミヨちゃんをひっぱたく

よしなよ浜さん。

浜さん

ぶたなきやわかんないんだよ、この子は！

ミヨちゃん

いつも閉店間際に飛び込んで、カラスの行水で帰る方でしょ。牛乳一本飲むくらい待ちますよ。って私が言うと、そうですかと白いのを一本取って一気に飲み干すその時に、何故か片手を腰にやる。

青シャツ

一々お客の顔覚えてるの？

ミヨちゃん

顔だけじゃないです。

青シャツ

エツ？

ミヨちゃん

全部覚えてます。閉店間際に飛び込んで、モジモジゴソゴソ服を脱ぐと洗い場でサッと流し、まるで女の子のゴム飛びのようにチャポンと内股で背中を向けて湯船に浸かる。

青シャツ

君みたいに若い娘が番台にいれば、そりゃア恥ずかしいもんですよ。

ミヨちゃん

わざと振って見せる人もいます。

青シャツ

そこまで自信ないもんで。

ミヨちゃん

それでモジモジ内股で、

青シャツ

イザって時にでかくなりやいの。

ミヨちゃん

牛乳ビン。

青シャツ

え？……そんなに太くは、

ミヨちゃん

そんなあなたが牛乳ビンを手にすると、胸を張って堂々と息もつかさぬ一気のグイ飲み。私全部覚えてます。

ケンちゃん

どうしてなんだ？どうして牛乳瓶握ると堂々たる態度なんだ？お前がそういう奴ならば湯船にだって豪快にベリーロールで入りやいだろ。何でチャップンなんだ？何だその二面性は？

青シャツ

理由を問われても、何故だかなアとしか言いようがありません。何故だか牛乳だけはコソコソ飲めない。グイグイと一息で、最後にハァと声上げて、時には健康ーっ！と叫びたい。

おかみさん

そういう人なんじゃないかね、この人は。その牛乳や満月や洗濯物みたいなもん見ると豹変するんじゃないかい？

浜さん

こりやどうだ？これは？(と、散らばったパンティやスカートなんかを振って見せる)こういうもんで取り乱すんだろ、あんた。

青シャツ

……。お宅のお湯も、このランドリーも常連なのに、こんな扱いは心外です。

おかみさん

ミヨちゃん。

ミヨちゃん

はい。

おかみさん

牛乳持つてらっしゃい。それ見てあんたが豹変したら、やっぱりそういう人なんだとわかるんじゃないの。

青シャツ

そういう人って、どういう人？

ケンちゃん

こういうことする、そういう人だろ。

青シャツ

牛乳で変身する人見たことある？

浜さん

うちのおじいちゃんがそうだった。牛乳飲むと、何か得体の知れない怪物が、体中でゴロゴロ唸り出す。やがてお腹も緩くなって、ピーピーだ、ピーピー。

青シャツ

お腹弱いんだよ、単に。

おかみさん

ミヨちゃん早く。

ミヨちゃん

白いんですね。(と奥へ去る)

青シャツ

そっちの白いのより、こっちの白いの一緒に捜していただけませんか。麻で出来ててツータツク。かつては親しみ込めまして、ツータツ君とも呼んでました。今日はツータツ君履いて行こうかなア、なんて思うとどこかウキウキで。盗ったんじゃない、捜してるんですよ、ここで。ヘタすりゃこっちは被害者だつっーの。

おかみさん

どうやらこれ以上は堂々巡りだねえ。

青シャツ

ああ、雨ばかりがズボンまで、

浜さん

そのズボンだって。ツータツ君？もっともらしく名付けたけれど、それ洗濯してたかも怪しいじゃないの。

ケンちゃん

そうだよ浜さん。あるはずもないツータツ君をさも捜すふりをして、物色の隠れ蓑に使ってる。

おかみさん・浜さん あるある！

青シャツ バカな！

おかみさん

それじゃこれはどうする？仮に振り上げた拳引っ込めて、抜いた刀も鞘に納め、覆水も盆にどうにか返したとしてだ、ここにその麻で出来ててツータツ君を見つけたとしようよ。けれどこの散らかりようだ。もうどれが誰のものなのか？ツータツ君だって、どうやってあんたのものだと証明できる？似たようなズボンを洗濯していた誰かなど居ないと何故言える？

青シャツ

それ、答えなきやいけないですかね？

浜さん

当たり前だよ。

ケンちゃん

嫌疑は晴れんぞ。

青シャツ

きっかけは雨なんです。

おかみさん

晴れて無罪になりたくないの？

青シャツ

これ言うと、何か色々巡り始めそうで。もうずっと遠い過去までが、あの雨みたいにまたこの体に降りかかる。

浜さん

もったいぶっちゃって、

ケンちゃん

時間稼ぎか？

おかみさん

このドロボー！

青シャツ

ラブレター。

おかみさん・浜さん・ケンちゃん ン？

青シャツ

ああ、言っちゃった……。こうして堂々巡りの入り口に立ってしまったんだ。

おかみさん

続けてちょうだい。

青シャツ

そんな気がして戻って来たんです。後ろのポケットに入れたまま。ただ、誤解して頂きたくないんです。そんなことがあったら大変だと戻って来たのではなく、そんなもんあるはずがないと確認しに戻ったんです。立ち寄ったコンビニのレシートか、水道料金の領収書か。だってそうでしょ、ラブレターなんかが入っていたら、それ見つけてしまったら、終わったはずの誰かが尋ねて来ちゃう。巡るはずのない過去が降って来る。昔履いてたズボンなんか押入れから引っぱり出すもんじゃないね。

おかみさん

とにかく、後ろポケットに出し忘れた何かが入ってるって言うわけなのね。

浜さん

鼻かんで捨てそびれた塵紙とかやめてよ。

ケンちゃん

外れ馬券は水に弱いぞ。

青シャツ

ああ、雨がきつかけで、どうやら堂々巡りの渦の中へと何か巻き込まれちゃってるなア。

ケンちゃん

洗濯が終わっていると見るや、勝手に乾燥機に放り込んで自分の入れ替える奴いるんです。

青シャツ

そこまだ開けてません。

浜さん

後ろポケットで間違い無いのね。(と開ける)

青シャツ

開けない方がいいと思います。

おかみさん

麻で出来ててツータック、白いズボンだね。(と開ける)

最後に残る乾燥機の前へ集まるおかみさん達。

青シャツ

嫌な予感がするな。そこ開けると堂々巡りが始まりそうだな。

おかみさん

開けゴマー！

ブハーツ！と水を吐き出しながら次々に乾燥機から現れる競泳パンツ男子高校生達。おぼれかけ、やっとの思いでプールサイドに這い上がったかのようにだ。

ケンちゃん

どうなってんだ、うちの乾燥機？

おかみさん

裏へ回ってちょうだい、裏へ！

と、おかみさん、ケンちゃん、浜さんは奥へ去る。

競泳パンツ達

もう助けて！

青シャツ

何なんだ、君達は？！

競泳パンツ達

僕達は青白い男子高校生です。

長時間水の中に居た為か、男子高校生達は本当に青白く、唇は紫色だ。

競泳パンツ1

無理矢理プールに放り込まれ

他の競泳パンツ達

上から棒で突つかれて

競泳パンツ1

いいと言うまで上がっちゃダメだって。言ったんですよ何度も

他の競泳パンツ達

僕達は泳げない！

競泳パンツ1

そしたらゴーゴーと音がし始めたんです。プールの中心は渦を巻き

他の競泳パンツ達

誰かが排水弁を開けたんだ！

競泳パンツ1

回ったね僕らは、クルリン、クルリンと。

他の競泳パンツ達

洗濯機じゃないっつーの！

競泳パンツ1

だけどこれだけじゃ済まないと言うんです。今度は朝起きて顔を洗いながら洗面台の渦へ。次は風呂の栓抜いて。最後は鳴門大橋から飛び込めと。体は冷えきり、気を失うと、温めてやるとその中へ。(と、乾燥機) また回ったね、僕達は。

他の競泳パンツ達

クルリン、クルリンと。

青シャツ

えらい巡りようだね。どうしてそんな目に？

競泳パンツ2

スカウトされたんだ、虹ヶ丘で

競泳パンツ3

うちの演劇部に入らない？って。

競泳パンツ4

女子高生とお芝居しない？って。

競泳パンツ1

その文化祭は、謝肉祭と銘打たれ、虹ヶ丘女子高演劇部がそこで発表する作品に出てみませんか、スカウトされたんです。

すると今度は、あの乾燥機の中から女子高生達。今時の彼女達は皆そうなのだろうか？妙に厚化粧に見える。全員口にはマスク。何か話す時だけそれをズラす。

女子高生1 V字腹筋始めて！

競泳パンツ達 はい。(とV字腹筋)

女子高生1 だらしがない。そんな体で舞台立つおつもり？

競泳パンツ達 はい！

女子高生2 背筋へ移って！

競泳パンツ達 はい(背筋)

女子高生2 私達は今度の作品にかけているんです。

競泳パンツ1 (背筋やめて)もういやだ！こんなことばかりやらされて、まだセリフ一つもくれないじゃないか！スカウトされるってもっと大事にされるんじゃないの？

女子高生1 今回の作品は一筋縄じゃないんです。全て巡るものにこだわって書かれた作品で、その上演を成立させる為には、貧弱な感性、虚弱な言語を蹴散らす体力が必要なんです。

女子高生2 オープニングからそうです。ある者は洗面台から、ある者は風呂の底から、プールの排水口からと回り巡り集まった者達が、巡るコインランドリーの洗濯機から回転錐揉み状態で登場する。

競泳パンツ達 もう今それをやりました。

女子高生1・2 嘘をつくでない。

競泳パンツ1 本当だよ、ねえ！見てたでしょ。

青シャツ ああ出て来た、出て来た。なかなか無い登場だった。

女子高生3 そうですか？ あんな登場でよろしかったでしょうか？ (マスク取る)

青シャツ

はい？

女子高生 3

あれで作品を壊したりしませんか？

青シャツ

それはお客さんが決めるよね。

女子高生 3

作者は怒らない？

青シャツ

作るより、壊すの目指して書かれていれば

女子高生 3

青井さんですね、作者の。

競泳。パンツ達

ええ！

女子高生 3

今日は上演許可をいただきに参りました。ついでに劇のさわりなんかちよびつと御披露したりして。

青シャツ

まさか！ 消えたズボンとラブレターを捜す？

女子高生 3

はい。あなたが書かれた。同人誌に載ったそれを部室の片隅に見つけたんです。上演の許可を頂けないでしょうか。

女子高生達

虹ヶ丘女子高校演劇部一同。

青シャツ

こうして過去が巡る乱暴な急展開。

女子高生 3

ほらごらんなさい。この作者は女子高生から頼まれや二下がり、ニタニタ許可を出すようなそこいらのチンピラ劇作家とは違うんです。熱意を情熱を届けなきゃ。

女子高生 1

何よりもこの作品に引きつけられたのは、全て巡るものにこだわりながら綴られているけれど、ほとんどが甚だしい現実離れの連発、にも関わらずどこか心に突き刺さるリアルな興奮。

女子高生 2

リアルならいいってもんじゃないと思うんです。リアリティーがありやいいとも思わないんで

す。何が、どうリアルなのか。そこが違うんです、この作品。

女子高生 1

例えばグリム童話がそうであるように、この作品は刺激する。暖炉に揺れる老婆の横顔が怪しげなスープをかき混ぜながら疲れて眠る迷い子を見ている。こんなの私達の原体験にあるはずないけど、何故かリアルに迫ります。

女子高生 2

意地悪な継母は、足の指を切って尚、姉の足をガラスの靴に入れようとするし、最後は、真っ赤に焼けた赤い靴を履かされ、踵から血の泡を吹き上げて踊らされる。

女子高生 1

ああ、何かが妙にこのリアル。たまらないんです。同じテイストを持つ青井作品。

青シャツ

そんなスゴイの書きました？

女子高生 3

私、あの数行を言いたい、あの台詞をどうしても言ってみたい。そういう取り組み間違ってるのでしょうか？ でも、その為に上演したくてたまらない。これ動機として成立すると思うんです。

青シャツ

あの劇終盤、肩を落とした主人公に私があります！

女子高生 3

許可を下さい。上演許可頂けないとこの台詞だって言えないじゃありませんか。

青シャツ

こんなに持ち上げられて許可を出さない作家がいるだろうか？！

女子高生達

それじゃ！？

青シャツ

その前に君たちは本当に高校生ですか？

女子高生達

ギッ！

女子高生 1・2・3

ついにそれを言う、

女子高生 1

ここは部長が、

女子高生 2

ひとつ穩便に、

女子高生 3

虹ヶ丘女子高校・演劇部部长として上演許可を頂きに来ております。

青シャツ

何故マスクで？ 何か不都合が？

女子高生 3

喉は役者の命、日々このようにケアに努めております。

青シャツ

スゴイですよ、化粧。見えてる所だけでも何かスゴイです。

女子高生 3

今時の女子高生はスゴイんです。JRに乗ってごらん下さい、おぼこい女子高生なんか一人も。

青シャツ

重大なこと隠してませんか？

女子高生 3

はつきり言っておきましょう。秘密の無い女子高生など居ない！

青シャツ

無理の有る女子高生は？

女子高生 3

そういう年頃なんです、ちよつと無理したい、背伸びしすぎた私達なんです。

他の女子高生達

そうそう。

青シャツ

だけどさ、

女子高生 3

まだ言いますか、劇作家！ あんたもつと無茶苦茶やつてるじゃないの劇中で。そりやあんま

りだ！ みたいなヒドイ登場人物ばかり出して来るじゃないの、あんた。ましな方でしょ、これ。

青シャツ

わかりましたよ。

女子高生達

それじゃ許可を！

青シャツ

ただ、この上演。いい加減にデッチ上げた役、当時のアレコレ、意外にノンフィクションだったりする場面、それらが、今じゃもう通用しないセンスだと客席の嘲笑をかう結果にならない

だろうか？

競泳パンツ1 きつと俺達だ、いい加減にデッチ上げた役は。

他の競泳パンツ達 うん。

女子高生3 許可いただけないんですか？

競泳パンツ1 ちよつと待て。許可も取らずに僕達はスカウトされたのか？

他の競泳パンツ達 うん。

競泳パンツ1 許可取ってないのにしごかれて、唇が紫か？

他の競泳パンツ達 うん。

競泳パンツ1 僕達のここまでは、モーレツな無駄か？

女子高生3 そうなりますよ、青井さん。もう発表してしまった戯曲じゃないですか。ちよつかり無許可で上演している連中だっているかも知れない。それ偶然目にして、ああ、あの頃の作品がって、そう巡っちゃう。発表するってのはそういうことですよ。むしろ、過去の作品が現在もと、その巡り合わせを劇作家として喜ぶべきです。

競泳パンツ1 放つたらかしこよ。

他の競泳パンツ達 寒いのに。

青シャツ 書き直します。

女子高生達 ええ？！ええ？！ええ？！（と、かなり大きなリアクションだ）

競泳パンツ1 もう勝手にやらせてもらおう。

競泳パンツ達は、そこいらにある洗濯物を重ね着して暖をとる。女子高生達はそんなの構わず。

女子高生 1

どこをどう直すんですか！

女子高生 2

どことどこをカットするんです！

女子高生 3

まさか！あのセリフは切らないで！

青シャツ

終わってみればほぼ新作。

女子高生達

そっ！そっ！そんなっ！（とかなりでかいリアクションだ）

青シャツ

だって、今見えてるみなさんの姿自体、すでに残念な取り組みです。

女子高生 3

それじゃ、虹ヶ丘女子高校演劇部丸ごとカットするんですか？

女子高生 2

その文化祭は謝肉祭と銘打たれ、その為に草食系男子高校生が拉致される。

女子高生 1

嵐が去ると虹が出た。きつと嵐が丘の向こうなんだね、虹ヶ丘は……あのト書きもナシですか？

女子高生 3

古くって、ダサくって、残念だな。そうならないように、今風の女子高生にしたんですよ。

と、「ほらっ」と女子高生達ポーズ。

青シャツ

残念ながら、服じゃないんです、残念なのは。

女子高生達

OH！

女子高生 3

そういうことおっしゃるんですね。それならこっちも言いますが、書き直しに失敗すること

女子高生 1

だってあるじゃないですか。終わってみれば、ほぼ新作って、そんな大幅な改訂をすぐできる程の作家ですか？　むしろ私達はあなたのセコイ所が好きなんです。エンディングでやっと見つけた白いズボン、その後ろポケットから取り出した紙くずを、どう見ても何かの領収書かチラシにしか見えないのに、その洗濯されて、縮こまっちゃって、ヨレヨレで、固まりになってるのをラブレターだと言い張る所ね。

そのチマチマした感じ。

女子高生 2

破れないように広げ長セリフ言う所。

女子高生 3

お客に伝わらない小っちゃい芝居。セセコマしいんです。あなたの作風。それでもいいと言ってるんですよ、こっちは。

青シャツ

夢か？さつき持ち上げられたのは？

女子高生達

今のままで十分です！

青シャツ

そう言われてもね。

女子高生達

上演許可をお願いします！

青シャツ

何と言えはわかってもらえる？

女子高生達

許可をヨロシク！

青シャツ

例えばこういうことなんですよ……。何故か手紙は捨てられない。いつか引き出しの奥や押し入れのダンボールに束んなって眠るけど、何かのついでに気がついて処分しようとして手に取れば、あの時やその頃が巡り巡って降りかかる。ある手紙は当時のまま、またはあの時以上に鮮やか

と思えば、変わり果て、落ちぶれ果てて、あれなんか今、更に痛む。月日は追体験を変異さる。読み返す僕はもう当時には居ないんですよ。幸せな再会ばかりじゃないでしょう。

すると、外からクルクルと転がり入って来た包帯。それたぐりながら、その包帯で顔はグルグル巻きの少年か少女かの区別もつかぬ。パジャマ姿が入口に立つ。その後ろから婦長が現れる。

婦長 ダメじゃないの、グルグルをほどこいちゃ。また痛くなるわよ。

包帯。パジャマ ……。(無言でうなづく)

婦長 それで、その手紙はどうしました？

青シャツ 何ですか？

婦長 処分したんですか？輪ゴムでくくって束にして押し入れの奥でヒツチャカメツチャカになって転がっている？ 春子さんは今日か明日かとあなたからの返信を待ってられます。郵便局のバイクが着く度、その音聞きつけて病室の窓から身を乗り出す。「ほら、届きましたよ」と私が持つて階段上がるの今度は病室のドアの前で待っている。まだなのかとベッドに入るが、もう夕方の方の配達が来る頃だつて、待ち合いの人ごみへ降りて来て、玄関で待とうかな、表通りまで行ってみましようか？と昨日なんか、ついに郵便局飛び越えて、あなたの部屋から一番近いポストの後ろで待ち伏せした。

青シャツ ヒツ。

婦長 連れ戻されると屋上に上がり、夕陽を浴びる物干しのシーツを背に、きつと封筒を切らしてる

んだと、明日は近所の文房具屋で待ち伏せすると言うんで、婦長の私が代わりにと、今、お部屋に伺った所です。それで、返して頂けないのかしら？もう返事は結構だから、返して頂きたい。春子さんそう言ってもらえるんです。まさか手紙を読んでない？届いてないとは言わないでしょうね。

青シャツ

おかげで押し入れをひっくり返すはめになり、あの頃のズボンまで見つけてしまって、変異した追体験の真っ最中ですよ。

婦長

あったんですね、ラブレター。それ、お返し願えればいいんです。それ以上は春さんも望まない。

包帯のパジャマが、包帯を青シャツの手に縛りつけ、引っ張って、婦長と共に青シャツを連れ去る。

女子高生 1

部長、今の、

女子高生 2

確か、

女子高生 3

中盤の舞台転換直前のシーンじゃないかしら。

女子高生 1

でも、ちよつと雰囲気、

女子高生 2

はい。

女子高生 3

もう、書き直しが始まってるとだわ。

女子高生達

まあ！

女子高生 3

何とかしなくちゃ。皆は後を尾行^{つけ}て。私達は知らせに走ります。上演許可はまだで、再演も出来ない可能性が大。もう稽古に集まってる頃でしょ、他の皆も。

女子高生達

はい。

と、皆、走り去った。

洗濯機の影で、忘れ物の衣類を重ね着していた競泳パンツ達だけ取り残されて。

競泳パンツ達

あのちよつと僕達は？！

と、言いかけた時、奥の扉から、おかみさん、浜さん、ケンちゃんが飛び出して来るので、再び競泳パンツ達は洗濯機の影に隠れた。こうして競泳パンツ 1・2・3・4は、重ね着1・2・3・4になってしまった。飛び出した銭湯の三人組の後から、ピピー、ピピーと笛を鳴らしてバスガイドのお姉さんが出て来た。

バスガイド

(ツアーの旗振り) ピピーッ！(と笛吹き終わり) 銭湯の横のドア開けて、ボイラー室を通り抜け、その裏にあるこのランドリーに現れた！

おかみさん・浜さん・ケンちゃん 何？

バスガイド

私がバスガイドで引きました？

おかみさん・浜さん・ケンちゃん いきなり何です？

バスガイド

この街を巡るバスガイドです。最近では外国人のお客さんも多く、家電製品と回転寿司のほか銭湯にも入ってみたい。そう申されまして、ツアーの行程に加えさせて頂きました。ご覧下さい、こちらが番台でございます！見上げた所、御不在で、もうチャッチャと入ってしまいましたよと洗い場へ放り込んだ。あの銭湯の絵が富士山でございます！明日行くはずの富士山もここで済ませましたが、その絵のヨットの方に食いついた客が、あれに乗りたいたって。あれは絵だから乗れないと言うと、それなら私達も富士山の絵しか見ていないと。もつともなこと言い出した。

おかみさん・浜さん・ケンちゃん あんたが悪いんですよ。

バスガイド

もう何人かヨットに乗り込んだって言うんで、まさか！と数えたらやはり頭数足りない。もしや！と横のドア開け絵の後ろへ回り込めば、お前も一味か！このドロボー！とボイラー室で怒鳴られた。どこ行きました？うちのツアー客。

浜さん

勝手にうるちよろされちゃ困るよ。

ケンちゃん

ボイラー室は立ち入り禁止！

おかみさん

どこへ消えたの、その人達？

バスガイド

あらま、これで何人目かしら……。 (と思い出し、数えてる)

おかみさん

あんた、そんな無責任な、

バスガイド

どうもおかしいと思ってたんです。家電量販店を巡りながら、巡るサイクロン式の掃除機を見ている3人が消え、回転寿司では、イワシ、アジ、ハマチ、マグロと皿が巡り、食物連鎖の順

に回るのかと質問された時、回転寿司は大自然の縮図なの？と、答えに窮していた所、よし頂
点に立ってやると、軍艦にフカヒレ乗ったのつまんだ2人がいつしか消えた。そして今度はこ
の銭湯で！

おかみさん

ちよつと、やめて下さいよ、洗濯物ばかりか人まで消えるつてのかい、うちの店。

重ね着1

スカウトされたんだ。

重ね着2

一緒にお芝居しませんかって。

重ね着3

出演させられるんだ。

重ね着4

ヒドイ目にあわされるんだ。

おかみさん

洗濯物が立ち上がった！

重ね着達

巡り巡ってこんなことに、

バスガイド

どこを巡るツアーの方？

重ね着達

妙な巡り合わせで、

ケンちゃん

奇妙だぞ、それ。

重ね着達

微妙にね。

浜さん

おかみさん。絶妙ですよ、この怪しさ。

重ね着1

全ては劇のオープニングの為なんです。回り巡った者達が集って来る所から始まるもんで。き

つとお宅のね、銭湯の底から何人かスカウトされましたよ。

バスガイド

そんな所へ案内したことになるの、私？そんなじゃ、発車オーライのバスガイドじゃなくて、ああ

いい湯だなのバスガイドになっちゃうじゃないの、私。

重ね着 1

さア、稽古に行こう、俺達も。

他の重ね着達

うん。

ケンちゃん

着ていくつもりか？

重ね着達

はい。

浜さん

何かメチャクチャよ。

重ね着 1

それもこれも皆演出家の方針なんです。

おかみさん

そういう手口を使うわけね、盗んで、隠れて持つて行くんじゃないかって、着て行くんだ、気付かれぬよう。

ケンちゃん

気付かれない？一つ一つは全て普段着だからですか？

浜さん

コーディネートが下手な人と思われるってことですか？

おかみさん

テレビで観たよ、似たようなの。万引きするとバレるから、レジを通る前に食べちゃうんだよ、カキフライ。びっくりだよ。

バスガイド

強引にまとめた。

おかみさん

見て、この強引な手口。

重ね着 1

強引な演出家なんです。

バスガイド

強引に連れて行かれたの？銭湯から。

銭湯の三人

一体どこへ？

重ね着達

虹ヶ丘へ。

バスガイド

ここの銭湯の排水溝は、そんな所に続いてんの？

銭湯の三人

そりやどこだ？

重ね着 1

回り巡る人達が行き着いてしまう所なんです。

重ね着 4

ある人は洗面台、風呂、プールから。

重ね着 3

またある人は、思い出、過去、巡る記憶から、

重ね着 2

そこで、虹ヶ丘女子高校演劇部が謝肉祭で発表する、全て巡るものにこだわった作品のオープニングを稽古する。

重ね着 1

回り巡り集まった人達が、回転錐揉み状態で登場するオープニングだから、役者も回り巡っている人を集めると演出家が無茶言って。

バスガイド

ガイドの私が聞くのもなんですが、どこにあるの？その虹ヶ丘、

銭湯の三人

近所にや無いよね。

重ね着達

演出家に聞いて下さいよ。

すると、ランドリーの外から声が「ちよっとお尋ねしたいのですが」そう言うや否や、黒いシヤツに黒いコートだが何故か下だけパンツの男が来て、忘れ物の洗濯物から黒いズボン捜してはいて、全身黒ずくめとなる。

黒ずくめ

虹ヶ丘へはどう行ったら良いのでしょうか？

バスガイドと銭湯の三人 は？

重ね着達

この人です、演出家。

バスガイドと銭湯の三人 強引だわ。

黒づくめ

巡っているうちに着いてしまう所と聞き、この街を巡りましたが、なかなか。ふと古着屋のウインドウにこのコート見つけて、「いいな、これ」と買いためたが、いつか電車の網棚に置き忘れた自分のものと気づき、こんな巡り合わせがあるのかと、一步虹ヶ丘に近づいた気がしておりました。すると駅裏の自転車屋で、先週盗まれた私のママチャリが軒先をかざっておりました。これ俺のだぞ。そんな私を店主は相手にせず、買い戻してやろうかどうか悩みました。色は塗り替えられ、酔って転んだペダルの曲がりど、サドルに刻んだイニシヤルだけが淋しく残る面影です。たった一週間の間に、変わり果て、おちぶれ果てた相棒と、巡り合ってしまった私に雨が降りかかる。どこかに虹は出ていないだろうか？ その下に虹ヶ丘が。けれどまだ行き着けません。

重ね着 4

毎日稽古に来てるでしょ。

黒づくめ

この台本だよ。

重ね着 3

出た！

黒づくめ

タイトルは『虹ヶ丘』その劇世界にはなかなか辿り着けず、少しでも近づこうと、こうしてこの街を巡ってみたが。虹ヶ丘……。それは一体どこにあるのか？そしてそれは何なのか？

重ね着 2

それ、稽古しながら見つけると、またヒドイ目にあわすでしょ。

重ね着 1

そこ解釈しないとオープニングさえ作れませんよ。どうする気です？洗面台、風呂の底、プール、鳴門の渦潮なんかから回り巡り集いし者達が、コインランドリーで回転錐揉み状態の登場。これどうやるつもり？舞台ですよ。冒頭の書き出しはこうだ。嵐が去ると虹が出た。きっと嵐

が丘の向こうなんだね、虹ヶ丘は……。何言つてやがんだ。それだけで回転錐揉みへ持つて行く？

他の重ね着達

強引すぎるよ！

黒ずくめ

そうか、ここが嵐が丘だ！

重ね着達

はじまったー！

黒ずくめ

見ろ！天気図上に渦を巻く台風が九つも！

おかみさん

これは洗濯機です。

黒ずくめ

見上げれば、空はまだ異常乾燥注意報！

ケンちゃん

乾燥機だよ。

黒ずくめ

ここへ一歩踏み込んで、ゴーゴーと唸りを上げるこいつらに囲まれて、嵐が丘だ！そう作者は思ったんじゃないだろうか？

浜さん

張り倒すよ。

黒ずくめ

そうですか、このコインランドリーはハリケーンという名ですか。

おかみさん・浜さん・ケンちゃん ドンガラガッシャーン。

黒ずくめ

やっと見つけた。さア行こう！虹ヶ丘はこの巡る渦の向こうだ。（重ね着達が現れたあの乾燥機へ行こうと）

バスガイド

ちよつとあんた！うちのツアー客返しなさいよ。風呂の底からスカウトされて、その虹ヶ丘つてのに連れてかれちゃったわよ。

黒ずくめ

良かったですね。オーデিশョンに合格して。

バスガイド

そんなのツアーに入っていないの。

黒ずくめ

なかなか入れませんよ。風呂の排水口からは狭き門です。

バスガイド

お宅のお風呂は網とか、フィルターとかって付けてないんですか？ジンジロ毛やシャンプーの袋なんか引つかかるやつ。うちのお客さんチューツって吸われちゃったじゃないの。

おかみさん

ちよつと待ちなさい。何ですか。この目の前で交わされるものスゴイ出鱈目は！渦巻く嵐の向こうに虹ヶ丘はあるって、それじゃ洗濯物もそっちへ消えたっての？盗まれてないっての？

ケンちゃん

お前らが着てつちやうから無くなるんだろ。

浜さん

そういう手口で持って行くんだろ。

黒ずくめ

ここが虹ヶ丘への入口なんです。

おかみさん

せめて脱ぎなさい。それ置いて行くなら、虹ヶ丘でも何でも行ってヨロシイ。

黒ずくめ

できません。もう衣装になっちゃってるんで。

重ね着達

これが？

おかみさん

それじゃ見せてちょうだいな。盗んだんじゃなく、虹ヶ丘へとこの嵐が丘から消える所。

バスガイド

やんなさいよ、スカウトする所。

ケンちゃん・浜さん

渦の向こうに消える所。

黒ずくめ

オーブニングのところです。おい、稽古通りにやるんだぞ。（パチンと手を打ちキツカケ出した）

重ね着達

うわー、まるで嵐だーッ！（とセリフを言った）

皆、洗濯機を押し、グルグルと回り、渦が渦を作る。時には一列に並び、又はぶつかり合う嵐

洗濯機の動きが表現している。その混乱の中、奥のドアから白牛乳持って来たミヨちゃん。

ミヨちゃん
持って来ました、白いやつ！

勢い甘ってつんのめり、洗濯の一台に頭から飛び込むミヨちゃん。

おかみさん・ケンちゃん・浜さん
ああ、ミヨちゃん！

「おかみさん……」とこだまする声を残し、ミヨちゃんは洗濯機の渦へ消えた。

重ね着達と黒ずくめ
虹ヶ丘へ消えちゃったー。

バスガイド

いつかこんなことが起きるんじゃないかと不安だったんです。旗をかかげるツアーの途中、振り返ると、誰もいなくなっていたらどうしよう。いえ、ある日振り向くと、見覚えの無い人達。どこへ行ったの？あの修学旅行生は？それは昨日のツアーだって、運転手は言うけれど、この街を巡るうち誰をどこへ案内してた？私の方が迷い込む。そこは私の虹ヶ丘なんじゃないかしら……。大変だ！湯船のお客さんは無事かしら？

そこはいつしか病院の屋上だ。シーツが干され、迷路のようなそこに洗濯機も並んでいる。夕陽に照らされたそこで、看護婦1・2がタオルや包帯を洗濯している。入院中の春子、シーツの

向こうからそこに現れ、

春子

屋上から眺める夕陽は、これで何回目？

看護婦 1

春子さん、ダメですよ、また上がって来て、

春子

検査ばかりでもてあます。

看護婦 2

冷えますから中へ。

春子

先生に言つてよ、早く手術をつて。もう春子は退屈だわ。

看護婦 1

春子さんが退屈してますよつて言うんですか？先生に。

春子

もう春子は退屈なの、だから手術に来たんですよ。

看護婦 2

手術で退屈を治すのね。

春子

ええ、もう退屈な春子とはさよならよ。

看護婦 1

夕刊でもお持ちしますか、お部屋の方へ。

春子

あの話をしてよ、何だっけ？グルグル巡る、二重の、あれは退屈しなかった。

看護婦 2

ああ、糖とリン酸から成る二本の骨格が外側でねじれ合い、平らに水素結合した塩基対が核を形成。その構造は塩基対を踏み板とする二重のらせん階段に似ている。

看護婦 1

何でこんなの好きなんですか？

看護婦 2

アデニン・チミン。グアニン・シトシンからなる4種の塩基が、

春子

回り巡りながら二重のらせんを描き寄り添い絡み合つても、決して触れ合い交わらずどこまでも続いて行く。ねえ、このもつれ方つて、国と国、人と人、男と女が、例え寄り添い絡み合つて

も、結局は一定の距離を保ち、どこまでも堂々巡りを繰り返すってことじゃないかしら。

「お連れしました。」と、あの婦長、包帯の一方の端持つシーツの奥から現れた。看護婦 1・2 は軽く頭を下げシーツの奥へ去った。

春子
その先なのね。

婦長
どうぞ、（と包帯の端を渡し）

春子
これをたぐったその先に、（と渡された包帯たぐる）

やがて、包帯に結ばれた封筒が一つ。春子は急いで開封したが、

春子
先月は一五七四円だそうよ。

看護婦
（受け取って）水道ですか？

青シャツ、シーツの奥から現れ、

青シャツ
もしやと思い、昔履いてたズボンまで引っ張り出したが、入ってたのはそれだけだったよ。何

度、催促されても、もううちには一通も無い、君からの手紙。

春子
決着をつけたと言ったのはあなたの方よ。

青シャツ

だからもう捨ててしまったんだよ。君からの手紙は。燃やしたし、千切ったし、念には念を入れ、田舎に帰って山羊にも食わした。

春子

まだ残ってるわ。

青シャツ

もう無いよ。

春子

読まずに食べたの、その山羊は？

青シャツ

さあね、

春子

白山羊？黒山羊？

青シャツ

どっちでもいいだろ。

春子

履いて来てって言ったでしょ。あの頃の白いズボン。あれ履いて返しに来てって手紙に書かなかった？私。

青シャツ

もうボロボロで無理だった。

春子

放つたらかしておくからよ。

青シャツ

変わり果て、落ちぶれ果てた再会だったよ。

春子

私とはどうなの？私とも再会したわよ、こうして。

青シャツ

言わせるのか？

春子

変わったわね。

青シャツ

お互い様だろ。それもこれで決着だ。返そうにも手紙は無いし、あのズボンもどこかへ消えた。思い出す度に変わり果て、あの時やその頃が巡り巡って降りかかったが、もうそのきっかけを作る材料が無い。君の雨は僕には降らない。あとは忘れて行くだけだ。

春子　また変わるわよ、私は。

青シヤツ　決着だ、思い出さないよ、君とのことは。

春子　いつか会おうわ街で。

青シヤツ　気付かないと思う。

春子　そして新たに巡り会おう。

青シヤツ　ゴメンだね。

春子　あなたのせいよ。堂々巡りを繰り返す。

青シヤツ　それも終わりだ。

春子　いえ、きつとあなたはまたやるわ。これまでだって、決着もつけず、放ったらかしの過去ばかり

じゃないの。これからそれ増やし、息を切らして引きずるんだわ。

青シヤツ　助かったよ、君の分だけ軽くなって、

春子　それがそうもいかないのよ。ねえ、婦長さん。

婦長　ええ、机の引き出しにゴムで束ねたのが3つ、押し入れのダンボールには年賀状も含めてゴロ

ゴロと。

青シヤツ　見て来たように言うなよ。

婦長　その他、押し入れには壊れたラジカセ、弾けないのに買ったギター、一度しか使わなかったス

キー板、使い方がわからなかった包丁研ぎ器なんかが放置され、

見て来たな。

春子　捨てられないわね、何故か手紙は。

青シヤツ

残念ながらその中に無いよ、春子と書かれた差し出し人は、

春子

私は春子じゃないわ。

青シヤツ

ん？

春子

最初はキョウウコだったかしら。客のあなたに、ウエイトレスの私から声をかけた。それからヨウコね。毎朝、同じ車両に乗り合わせ、いつしか挨拶を交わすようになり……。私、リョウウコだったわ、その次は。初対面で意気投合して。ショウウコの時は、あなたから誘ったのよ。

青シヤツ

何を言ってるんだ。

春子

電話だけにしとけばいいのに、手紙を書くと残るわね、捨てられない証拠が。あるでしょ、差し出し人がその名でゴムで束ねた放ったらかしが。まだ私いるでしょ、あなたの所に。

青シヤツ

春子、お前……。

春子

もう春子は退屈だわ。退屈になっちゃったの、春子は。次は誰になってあなたと出会おうかしら、キョウウコに戻って、手紙を書こうかな。返してあの頃の証拠って。また巡ってるわね、あなたの中で。それは当時のまま？ 変わり果てる？ 更に今、痛むかしら？

婦長

手術は明日だと先生がおっしゃってましたよ。

春子

楽しみね、わかるかなあ？ 次に出会った時、それが私だって。

シーツの向こうから顔を包帯でグルグル巻いた患者達が、夕陽の屋上に出て来た。

婦長

この病棟はいつも満員なんです。皆さんグルグルと巡る包帯の下で、次はどう出会って、どこ

からやり直そうか待っておられます。

春子

もう一度、別の顔で初めからやり直せば、うまくいくものなのかしら？ 私達の筋書きを、書き直せるの？ 傑作に生まれ変わる？ どうもうまく決着つかず放ったらかして投げ出す？ やってみ

ましようよ、また堂々巡りの苦い過去を増やすことになるかどうか。

青シャツ

そもそもあのズボンがいけない。

春子

やれないわよね。だから雨が巡ると思い出され、また私達も巡り出すんだわ。

青シャツ

麻で出来ててツータック。この堂々巡りはあの後ろポケットから始まるんだ。

春子

雨と違って、私達は、巡る度に同じ顔しないから。

青シャツ

あのズボンを何とかすれば。

春子

履いてこなかったし、あのズボン。もうボロボロなんでしょ。

青シャツ

実はあれ、あの頃のまま押し入れにあってね。今日洗濯した。履くつもりもないのに。

春子

嘘だわ。

婦長

コインランドリーに居たのを見つけ、こうしてお連れしたんです。

青シャツ

わざと盗まれるよう、コインランドリーに放置したことにするか？

春子

本当なの、ズボン？

青シャツ

脱水中の引っ掛かり、ズタズタは？

春子

都合がいいわね。

青シャツ

乾燥機の中で燃え尽きたところから始める。

春子　それで決着するの？

青シャツ　もしやポケットに。そんな幕開きにはならない。もはやポケットには。そう決着するところから始まる……。

春子　雨はどうするの、雨男の上だけに降り続くわよ。ズボンは消えても雨は消せない。また巡り出す、私達も。

青シャツ　いや、ツータツ君だけじゃない。残りの手紙も全て処分するには……？

春子　できないわ。そんなこと。

青シャツ　やれるとこ見せてやる、何とかズボン捜し出し。

春子　それ、私と気付かず出会ってしまう。そんな新作になるわ。いえ、もうなってる。実は春子さんももう手術して、そこにいるグルグル巻の一人よ。私は頼んで春子さんへと手術したの。嘘よ、まだわからない？　婦長さんは顔を変えた春子さん。

婦長　ふん、驚いた？

青シャツ　何でわざわざその顔に？

婦長　春子さん、一瞬でバレたわ。

春子　自分で確かめなさいよ。この包帯ほどいて。(とグルグルの包帯達)

青シャツ　そこに決着があれば、

春子　また巡る。忘れられないわ。それが決着です。

「恋の季節」グルグルの包帯達、青シャツの腕に包帯の端を結びつけ、自ら距離をとってほど

いて行く。青シャツを中心に包帯達が動くので包帯は青シャツに絡みはじめ、ほどけたと思ったら今度は青シャツにグルグルと巡り、皆、そのままシーツの向こうへ見えなくなった。誰も居なくなった屋上の洗濯機の後ろから、あの黒づくめの演出家と重ね着達が現れ、シーツを取り払うと、そこは虹ヶ丘のリサイクル屋（廃品回収・ガラクタ屋に近い）となる。「リサイクル虹ヶ丘」の看板。重ね着達、それぞれ洗濯機と共に立ち。

重ね着 1

あのランドリーでスカウトされ、また大勢来られています。

重ね着達

この虹ヶ丘へ。（と洗濯機のフタを開け）

黒づくめ

オーデイションを始めよう。

重ね着 4

（洗濯機の中からトレットペーパー取り出し）見たところ使いかけです。クルリン、クルリンと巡っているうちにこの虹ヶ丘に着いてしまったのでしょうか。何故、彼か、いや彼女か？局部を優しくぬぐうそれは男性名詞と女性名詞、どちらが正しいか意見の分かれるところですが、とにかくこの方がスカウトされたのは、巡り渦巻いたこの形状だけでなく、少し濁った灰色の再生紙故ではないでしょうか。最初は、ご高名なる書道家が書き損じた一枚だったかも知れない。京の老舗の和菓子どすえ、と雅にそれを包んだのかも。それが巡って茶封筒へ。更に巡って新聞、ダンボールへ。そのように回り巡ったこだわりの逸品だからこそそのスカウトだったのです。

黒づくめ

巡る度、変り果て、おちぶれ果てるわけですね。うむ、特技は何ですか？

重ね着 4

お掃除かな。清潔一番、ケツには私。さっと溶けて流れます。

黒ずくめ

なるほど、糞尿にまみれ流され、溶ければもう二度と巡れないんですね。残念ですが不合格です。

重ね着4

元のトイレットペーパーに戻って言うんですね。（と、洗濯機へ）

黒ずくめ

次の方どうぞ。

重ね着2

はい、失礼します。（と、洗濯機から桶出して）誰かがこいつに蹴つまずきゴロゴロ転がったからでしょうか？どうすれば桶が回り巡ってスカウトされるのか？そうだ風が吹いたんだ。街を風が巡り、ここでは省略しますが、紆余曲折の末、巡り巡って桶屋が儲かる巡り合わせ。人間万事塞翁が馬、わらしべ長者にも見られる古典的巡回構造がスカウトの理由です。自己アピールをどうぞ。

黒ずくめ

重ね着2

風呂以外でも、氷浮かべてそうめん食べ、寿司桶に、また、裸踊りにも使えます。

黒ずくめ

一つ気になるんですが、風が吹けば桶屋が儲かるって事は、桶屋が儲かると風が吹きますか？そうすると桶屋が儲かって更に風が吹き……と、雨のようにいつまでも堂々巡りをするんでしょうか？

重ね着2

オケしいなア（おかしいなア）そんな話し聞いたことありません。

黒ずくめ

今回は選に漏れました。

重ね着2

おけえり下さい。（お帰り下さい）ってことですね。（と、洗濯機へ）

黒ずくめ

今日のオーディションは不作だなア。次の方。

重ね着3

（上着を一枚、洗濯機から取り出し）古典の次であれですけど、どちらかといえば比較的新人で、ペットボトルなどから再生して巡るそうなんです、この素材、お綾や、親にお謝り、お綾や

八百屋にお謝りとお言い。

黒づくめ

本当、新人だねえ。もの言いがまだ素人だ。残念ですが。

重ね着3

来年またチャレンジしていいですか？（と洗濯機へ）

黒づくめ

次の方。

重ね着1

こちらなんです。（と洗濯機から小さな水車を取り出し）これ金魚鉢なんか沈んでる水車です。水中でグルグル回った姿がスカウトの理由だと思っただら大間違いなんです。そんな平凡なキャラじゃありません。

黒づくめ

ほう、個性派なんだね。

重ね着1

この水車はある実験に使われておりました。ほら虹ヶ丘にまた虹が。あそこはまた降っている。そんな実験なんです。

黒づくめ

じらすねえ。それはどんなの？

重ね着1

雨の堂々巡り、永久運動を実験室で再現しようとしたのです。模型の小屋に雨が降る。それ桶（とい）が集めて水車を回す。その発電でポンプ動かし水汲み上げて、また小屋に雨が降る。初めにシャワーで水かけりや、クルクル回るこの水車、その発電でポンプは水を汲み上げたが、シャワーを止めると発電は続かず、すぐに水車も止まった。結局、雨の自家発電はうまくいきませんでした。それじゃ何故、虹ヶ丘にはいつも雨が巡るのか。あれはただの雨じゃない。巡る度に変異して、いつまでも忘れられなくなる雨なんだ。同じ水の循環で永久運動は不可能と知り、ヤケ起こし、コンセントに継いでポンプが焼け、コッパミジンに吹き飛んだ。その破片がこの水車なんです。

黒ずくめ

巡るって一体何だろね？何でそんなもんにこだわっちゃうんだろね、それより何で巡るんだらう？巡る度に変異するとそれはどんな巡り会いで、その堂々巡りは何が原因？と一通り巡らしたところで、今日もリサイクルの稽古から行ってみようか。

重ね着達

えー、またですか？

黒ずくめ

巡る度に、色・形・品質を変え、つまり変異するってのはリサイクルってことだろ。それしかこの作品解釈する手がかりが無いだろ。だからお前等も巡れ。この街を巡るジプシーとなって缶やらペットボトルやら集めてみる。大切だよ、そういう役作り。

こうして重ね着1〜4はジプシー1〜4となっちゃった。

ジプシー1

あんたどうすんの？ ぼく等ばっかにやらせて。

黒ずくめ

演出家の責任だ。この『虹ヶ丘』解釈の為、巡る吟遊詩人となって劇世界をさ迷ってみる。

ジプシー達

んなこと言っちゃって。

ジプシー4

隠れて一杯やりにいかないでね。

黒ずくめ

バカ野郎！そんなヒマがあるのか！お前達が登場するオープニングすらまだできてないんだぞ。いや、まず、この作品が何故巡るものばかりにこだわって構成されているのか？虹ヶ丘女子高演劇部は謝肉祭で巡るものばかりにこだわる作品をなぜ上演せねばならぬのか？その辺り解けないと、どっちの方向いて取り組んだらいいかわかんないでしょ。本格的な稽古はそれからでしょ。

ジプシー3

まだ演出プランが無いということですか？

黒ずくめ

一番新人のお前がそういうこと言うの？とにかく巡るものにこだわって書かれてんのは事実なんだから、準備としてその材料集めは必要だろ。資料とか調べものとか……。だから巡れとにかく、このジプシー。演劇部の部長なんか役作りに頭かかえ、どこをどう巡っているのか、しばらく登場してないだろ。

「ただいま戻りました」と虹ヶ丘女子高演劇部部长が、赤いドレスにラフな上着を羽おり、大きな旅行カバンを引きずって現れた。

黒ずくめ

どうした？！しばらく見ないうちに変わり果てたねえ。

部長

そりゃシンドかったですわ。いくら役作りとはいえ、作品の材料集めに悩んだ末の女子高生が、やがてキャバレー巡りの艶歌歌手となり全国を巡る。なんぼ巡るものにこだわった作品だからって、シンドすぎます、この下積み。

黒ずくめ

で、どうなの？戻って来たってことは、何か見つけた？解釈の糸口。

部長

いろんな男と出会ったわね……。

黒ずくめとジプシー達 始まった？

部長

そりゃ優しくしてくれた人もいたわ。だけど、どの街で歌っても誰一人私の歌なんか聞いちゃいない。うるさいと水割り浴びせられたっけ。北国、鉛色の空、灰色の海、吹きつける氷の雨。ずい分巡り巡ったけれど、それが一体何になるの？ 巡りながらどこ行くの？ああ謝肉祭に間

に合わない……。(と遠く見る艶歌歌手)

黒ずくめ
まだやりますか？

部長
そんでね、なんだかんだ言っても、何故謝肉祭に向けてこんなことまでしなきゃなんないのか？
それ解決しないと先へ進めないじゃないですか。

黒ずくめとジプシー達
そうね。

部長
だから巡ってないでちよつと立ち止まり、謝肉祭のこと考えてみた。

黒ずくめとジプシー達
うん。

部長
何か肉に関係するんじゃないかしら？

黒ずくめとジプシー達
お肉？

部長
だって謝肉祭でしょ。その後四十日間は肉を断たねばならない。そんなお祭りでしょ。で焼肉
毎日食べてみたんだけど、キャバレー巡りの不規則な生活も重なって、ちよつと太っちゃった
んじゃないの？って。役作りで太っちゃってもいいのか聞こうと旅先から戻りました。他の皆
はまだですか？九州の方巡ってるのは誰？ドサ回りやっていると、このまま鳴かず飛ばずで消え
てっちゃうんじゃないかな、私。ヘコンじやうのよね、何だか。人知れず引退って、それならま
だ巡ってる方がマシですよねえ。てやんでえ！こつちにだって意地ってのがあって。今
に見てやがれてんだ。

黒ずくめ
あんたそんな娘だった？ 巡るとずい分変異するのね。

ジプシー1
気持ち……つらいかなあ、こういうの見るの。おい皆行こう、役作り。

黒づくめ

早く解釈を、私もな。君は少し旅の疲れでも癒せ。

と逃げ出すようにジプシー達、黒づくめは去る。一人になった部長

部長

あーあ、虹ヶ丘……。どこまで巡るいつまで巡る、クルクル巡るリサイクル……。

「リサイクルの虹ヶ丘」その小屋の丸窓から、あのバスガイド顔出して。

バスガイド

ここが虹ヶ丘かしら？

部長

はい。

バスガイド

あらま、来ちゃったわよ、私も。

部長

スカウトされたんですか？お芝居に？

バスガイド

それが違うんだって。銭湯の人達は消えちゃうし、何より湯船のツアー客がね、飛んでいったら皆のぼせて。時間も押してますからと、ツアーの先を急いだけれど、目が回ると皆バスへ倒れ込んだ。いえ、街を回るんですよと言うと、ああ街が回るって。いつかこんなことが起こるんじゃないかと不安だったんです。旗をかかげるツアーの途中、次はそちらで次こちら、そう巡り巡っているうちに、巡っているのは私じゃなくて、街の方が私の周りを巡ってる。巡る街の渦に吸い込まれて行くようで、あーれ……。こうして私も虹ヶ丘へ来てしまったのね。

部長

私もね、女子高生のはずだったのに、今じゃ巡り巡って売れない艶歌歌手ですよ、キャバレー

巡りの毎日です。

バスガイド

皆そう言うの。ちよつと前まで高校生だったのに、あらやだ、女って変わり果てるわねえ。同窓会なんか行くとタマげるわよ。

部長

あのオ、巡り巡ってまた女子高生に戻れるってことはないんですかねえ？これからは変り果て、落ちぶれ果てるだけですか？

バスガイド

巡るとどこへ行き着くのかしらね？私いつしか行き先を知らぬバスガイドだわ。街を巡るんじゃない、街の方が私の周りを巡ってる。あーれーとなった時にね、ちよつと、あれ？とも思っちゃった。私、どこへ向かつてる？水の渦はき、引き込まれて、底の方へと落ちてくわよね、だけど竜巻ね、あれなんか同じ渦なのに、どうして巻き上げられて上昇すのかしら？あーれーと渦の中心にいる私は今落ちてる？登ってる？あれ？って思っちゃったのよ。とにかく、こっちですよー！と旗だけは振ったけど、どうやらお客さんともはぐれたわ。

部長

巡り巡って行き着くかしら？虹ヶ丘の上演に。

そこへ、女子高生1が、やはり艶歌の地方巡業から大きなカバン引きずって帰って来る。

女子高生1

部長、ただいま。

部長

えっちゃん！ 久し振り、どうだった四国は？ 何か痩せたよ。苦労したんだね。

女子高生1はえっちゃんらしい。

えっちゃん

高松のね、アーケードの下、みかん箱に乗って歌ったりもしましたが、高知まで巡ったところで、ホトホト疲れてしまって。土佐の海と空見てたら、故郷のとうちゃんとかあちやんどうしてんだっぺって、急に帰りたくなっちゃって。気がついたら電話しながら泣いてたの。町役場に書類整理の椅子が一つ空いてっからって、もう帰って来いと。もうこの世界から足洗え。巡り巡ってそんなことになっちゃった。

部長

えっちゃん

この辺りが潮時かと。

部長

変わったね、巡るうち。一緒にいい芝居創ろうって、あんなに熱く語り合ったのに。

えっちゃん

実はお腹に赤ちゃんが。

部長

でた。一番多いんだ、そういう理由が。やることはやってんだよね、忙しいって言いながら。

そこへ、女子高生2も艶歌の地方巡業から「ハロー！」と帰って来た。

部長とえっちゃん

みっちゃん！

部長

あんたもまた変わったわね。何か化粧厚すぎない？ どうだった横浜は？

女子高生2はみっちゃんだった。

みっちゃん

それがさ、トムやジョージがうるさくて。ベースの客は突然消えてそれっきりってのが多いで

部長
しよ。それ追っかけて佐世保だ沖繩だって巡ったけれど、気がついたら小倉の酒場で歌ってた。そんな暮らしにそろそろ嫌気が差してね。今日は退部届出しに戻ったのよ、部長。
あんたも辞めるの？

みっちゃん
小倉のタクって男がね。あの辺りじゃちよつと顔でさ、いろいろ世話してくれてね、実は一緒に暮らしてるのよ。知り合いがスナックやってるからそこで働けて。金がたまったら一緒に小さな店でもやらないかって。売れない歌いつまで歌ってもね……。

部長
そのタクってのにだまされてない？

みっちゃん
昔は悪かったそうだけど、根は良い人よ。皆はよせって言っただけ。

部長
何かみっちゃん、絵に画いた転落。

みっちゃん
そろそろ大人にならないと。夢食べて生きてはいけないものね……。渡る世間の荒波に、この身任せて来たけれど、巡るは涙の雨ばかり、あーこりやこりや。

部長
ちよつと待って。あんた達完全に見失ってる。私達は艶歌で成功したくてこれやってんじやないのよ。謝肉祭で上演する「虹ヶ丘」が、何故、巡るものばかりにこだわる作品なのか、それ解釈する為でしょ。

えっちゃん
そしたら巡ってこうなったんです。

みっちゃん
どう巡るかわからないわね、人生なんて。

部長
(バスガイドの旗取って) こっちよ、そっち行っちゃダメ！(と振る)

バスガイド
このままはぐれて、渦の底へ落ちて行くのね。

部長
巡るって、こんなに変わり果て、落ちぶれ果てるの？つい30分前まで女子高生だったのに。

バスガイド

私、はぐれた皆捜しに行く。この渦戻る。どうやら落ちたんだわ、ここへ。(と丸窓へ去る)

部長

ああわからない。巡ったって何もいいことないじゃないの。だけど何故そこにこだわるの、虹ヶ丘……。

「聞いてないよー！」 ドドツとジプシー達転がり込んでダダこねる。まアまアと黒ずくめなだめるが……。

ジプシー1

やっぱりもう嫌だ。

ジプシー2

あんまり待遇違うじゃないか！

ジプシー3

スカウトされたのは、こっちの方が先ですよ。

ジプシー4

こっちはリサイクルで、あっちは何だかりニューアルです。

黒ずくめ

たまたまだよ、たまたま。時としてそういうこともあるんだよ。ささ、こちらへ。

いつしか艶歌の女王となった浜さんが、マネージャーのおかみさん、坊やのケンちゃん従えて現れた。

浜さん

(扇子パタパタやりながら) おかみさん、ケンちゃん。さっさと皆にお配りしなきゃ。

おかみさん・ケンちゃん

はいはい。(と、大人り袋を配る)

浜さん

人生って不思議なものですね。ついこの間まで、私が銭湯のタイル磨いていたなんて一体誰が

思つかしら？

おかみさん

(配りながら) キヤバレー巡りで、少しずつ火がついちちゃって。

ケンちゃん

(配りながら) 今じゃ飛ぶ鳥落とす勢いで、泣く子は黙るし、寝た子も起こす。

浜さん

フェニックスが舞い降りましたよ、皆さん。

ジプシー

同じスカウト組なのに何だよ。上の方から。

浜さん

ねえ、人生って不思議なものですね。

えっちゃん

この人です。行く先々で営業を横取りして。

みっちゃん

女王復活って、女王だったことないのに大風呂敷で。

えっちゃん

ホトホト疲れた、もう故郷へ帰る。

みっちゃん

嫌気がさした。退部しますわ。

浜さん

それもまた人生。ケン坊、グリーン取ってくれない所の仕事は受けなくてね。

ケンちゃん

どうするんだよミヨちゃんは、キヤバレー巡りながら捜すんじゃないのかよ。

おかみさん

どこ行っちゃったかわかんないんだよ、あの娘。

黒ずくめ

すいません。あんまり大勢回り巡りながらスカウトされて来るもんで、オーディション後に、

部長

誰がどう役作りに取り組むため、どこをどう巡っているのか把握できていないんです。

何か浮き沈み激しいなあ。巡るこの業界。なんぼなんでも、何から何まで巡りすぎじゃないですかね、この虹ヶ丘。

浜さん

幼い頃、生き別れた娘のミヨ子を探しています。受けたわね、当たったわね、この企画。

おかみさん

情に打たれて、皆さんお仕事下さって。

浜さん

捜して見つからないのなら、向こうに見つけてもらいましょう。その為に、この女王復活は必要なんです。どうかお力を。

ケンちゃん

よく言うよ、ミヨちゃん見つかったちゃったら、この企画も終わるから、もしミヨちゃんが会いに来て、この子じゃないって、知らん顔しようって言ったじゃないか。

部長

えっちゃん、みっちゃん、もう少し頑張ろう。あんなニセの人気商売巡らせなくても、下積みの実力でヒット飛ばそう。

えっちゃん

部長こそ見失ってますよ。

みっちゃん

艶歌の歌手は目指してないの。

部長

私達だって復活しなきゃ。こうみえても元は虹ヶ丘女子高演劇部よ。

えっちゃん

更に巡るんですか？

みっちゃん

巡った末がこれなんですよ。

黒ずくめ

ああ、堂々巡りだ！

賛美歌が聞こえる。校長先生であるシスター現れて。

シスター

皆さん、謝肉祭の準備は進んでいますか？

部長・えっちゃん・みっちゃん

校長先生！

シスター

皆さん、ちよっと見ない間に老けたわね。あつという間だわ。月日が巡るのは。もうすぐだわね。謝肉祭。今年はどうなのお芝居観せてくれるのかしら？

部長

それが、台本も私達も巡るばかりで何も。

シスター

あら、巡るお話なのね。謝肉祭にふさわしい。

黒ずくめ

ん？どうふさわしいんですか、校長？

シスター

謝肉祭の後、四十日間は肉を断たねばならない。だから毎日焼肉で、もう脂っこくてグルグル巡るわよ。お腹。

黒ずくめ

ふさわしい解答を期待したのですが。

シスター

また巡り会う為のお祭りじゃありませんか。巡る度、変わり果て、落ちぶれ果てるばかりでなく、また巡り合い、生まれ変わり、復活を祝うのでしょ。

浜さん

私のことですか、それ。

シスター

謝肉祭の後、四十日間肉を断ち、復活祭を迎えるのが信者の習わし。復活を祝いその後にもまた謝肉祭で肉を解禁する。こうして巡り、復活を喜ぶ。おおイースター、そして私は、校長でシスター。

黒ずくめ

虹ヶ丘……、巡るものばかりにこだわった作品……、

えっちゃん

巡ればいつか復活できますか。

みっちゃん

変わり果て落ちぶれ果てるだけじゃないのね。

部長

新たな出会い、それも巡ればこそですね。

ジプシー1

なぜ巡るものにこだわるのではなくて、

ジプシー2・3・4

巡る自体が喜び、

浜さん

私は巡ってフェニックス。

おかみさん・ケンちゃん 世界の遺産はスフィンクス。

黒ずくめ

ああ、巡るって何て素晴らしい。そうか、巡る喜びで成長し、巡ることにこだわるのが生きる事だと叫んでいるんだこの作品。

バスガイド、はぐれたツアー客捜し出し、案内して丸窓から現れた。

バスガイド

皆さま、こちらが虹ヶ丘でございます。

部長

ちよつと静かに！今、大事な所やってるんです。

バスガイド

はぐれたと思ったら、そこで出くわして。良かったわよ、戻って。

黒ずくめ

なるほど、虹ヶ丘女子高が謝肉祭で発表するにふさわしい。

バスガイド

あら良かった。何かお祭りやってますか？ラッキーですよ、皆さん！（と丸窓の奥にいるツアー客へ）

部長

もう！黙って！そうか、この巡るものばかりにこだわった役作りは、復活を目指すのね、そこ

へ行き着くんた。

バスガイド

さアどうぞ、こっちです、皆さん。

出て来たのはあの包帯グルグル巻き、その中にグルグル巻きとなった春子も居る。伸びた包帯の先から青シャツも姿を現した。

バスガイド

あら、あんた達誰？いつかこんなことが起きるんじゃないかと不安だったんです。私、誰を案内したんだろう？

青シャツ

良かった間に合って。今、安直なエンディングへ説明的に向かおうとしてみましたね、ありがとうガイドさん、先の展開考えず、とりあえずあなた登場させといて助かった。

バスガイド

そうか、誰をどこへなのか見失うわけだ。私は行き当たりバッタリのガイドだったのね。書き直しますよ。エンディングはそっちへ向かわない。

グルグル巻きの春子

できないわ。あなたには無理よ。

部長

この直後だったんです、私が言いたいセリフ。

青シャツ

それも全部無しだ。

部長

ここまでやっと運んで来たのに？

青シャツ

もう書いた頃には居ないんです。読み返しの追体験は、オープニングからの書き直しに辿り着いた。

青シャツ以外の全員

イケてなかった？ここまでの私？

青シャツ

そこで登場人物の皆さんに、一つだけお願いがある。あのツイッター君を返してもらえないだろうか。あそこから書き直すんで。

黒ずくめ

ちよつと待ってくれ。回転錘揉み状態のオープニングは無しか？それどうやろうかここまで考えて来たんだぞ。

ジブシー達

ヒドイ目にあっただぞ。

黒ずくめ

聞かせてくれ。コインランドリーは嵐が丘だ。この解釈も間違ってるのか？洗濯機や乾燥機が

渦巻く嵐に思えたんだろ。それが回転錐揉みのモチーフだ。

青シャツ

乾燥機からの蒸発でムツとする生活の匂いだったんです。その生活達は、グルグルと巡り、ねじれ、回転錐揉み状態でそこにありました。オープニングは洗濯物がそんなふうにならぬように声を上げて巡っていいんです。

黒ずくめ

その風景だけでいいのか？そんなの実際に行って見りゃいいだろ。そんな静かな演劇書くの、お前？

青シャツ

もう、巡るものにこだわるのもやめるんです。すべてに決着つけて、もう巡らないようにするオープニングです。捨てられない手紙の束、何故捨てられないのか？捨てればその後悔が巡るからです。しかし、過失ならば仕方ない。後ろのポケットから出し忘れて洗濯するんです。毎日一束ずつ。オープニングはそんな決着のシーン。

青シャツ以外の全員

ムチャクチャダア。

青シャツ

この処分です。巡る過去と決着する。

部長

何か不健康だわ、それ。

えっちゃん

劇作家は皆そう？

みっちゃん

不健康だから劇作家なんかになるのよ。

青シャツ

スカウトされて、どこにいるんです、ツイッター君は？

黒ずくめ

彼のオーディションはまだです。それじゃこういう演出にしましょう。この洗濯機のいずれかにあのズボンはある。

八台の洗濯機が持ち出された。

黒ずくめ

一発でそれ当てたなら好きに書き直しを。もしそれ外れたら、やはりあの雨のオープニングから始めてもらおう。

グルグル巻きの春子

手紙の過去に決着つけても、雨にどうやって決着つけるの？ 雨が巡れば、雨にまつわる過去も巡るわ。雨で始めましょ。またこの物語。

黒ずくめ

(台本手に) ここにあつたぞ、主人公は雨男だ。

バスガイド

あのどうせ行き当たりバッタリで登場させたんなら、もう退場させてもらえませんか？何かまだこのシーン付き合ってるの、無理があるんじゃないかって気がしてね。

部長

いいえ、一緒に歌って下さい。雨が巡るところから始まって、全て巡ることにこだわってこの作品を、どれだけ苦労して巡って来たか。女子高生がドサ回りに身を落としキャバレー巡りで謡い続けたこの歌も、巡る雨にこだわったんです。

「雨の慕情」いつしか皆歌い出し、洗濯機が輪を描いて巡る。その中心にいるのが青シャツだ。どの洗濯機にツータツ君がいるのか当てる為集中している。

やがて一台の洗濯機に手を突っ込んだ青シャツ。麻で出来ててツータツクの白いズボン。ツータツ君を掴み出す。

青シャツ 書き直しのオープニングがここに！

青シャツ以外の皆 そんな！

青シャツ 劇作家として手応えあります。このモチーフ。

青シャツ以外の皆 ウソ、やめて！

青シャツ ありや、引つかかっている？ 何かかんじやっている……？

ツータツ君は、洗濯機の中の何かに引っ掛かり取り出せない。

黒ずくめ まだだ。

青シャツ以外の皆 完全に引き当ててない。

青シャツ 何をー！ コノオ！（と引き抜く）

一緒に洗濯機からミヨちゃん飛び出し。

ミヨちゃん ついに持って来ました。白いやつ。

銭湯の三人 ミヨちゃん！

青シャツ （思わず牛乳手に取り、片手は腰へ、一気に飲んで）健康ーっ！！しま

った、不健康な発想が、

ミヨちゃん 豹変しました、おかみさん！

青シャツ

(ガックリ肩を落とす)

青シャツ以外の皆

ガックリ肩を落とした。

部長

(青シャツに歩み寄り) どうしてポストに入れなかったんだろう? そんな手紙が胸の奥に積もってる。一枚一枚開封したら、雨がその便箋の行間の線ひいて、そこ埋める言葉をまだ捜しあぐねて白紙です。巡りませんか? 書けなかった手紙の方が。また巡りましょう。書けなかった一言を。

青シャツ

言いたかったんでしょ。そのセリフは残しますか……。

すると雷と雨。虹ヶ丘は雨の中へ。やがてそこはコインランドリー。

青シャツは、乾燥機から仕上がった洗濯物取り出し、袋に詰めて、出口に立ち外を見た。ちよつと振り返りコインランドリーを見回したが、また外を見て。

青シャツ

よく降るな……。 (と雨の中飛び出して行った)